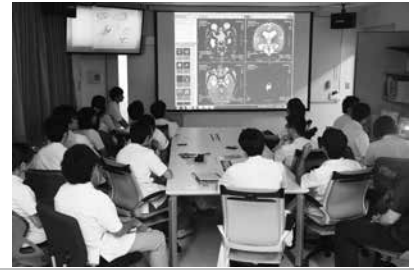


耳鼻咽喉・頭頸部外科

■診療科長 東野 哲也

■研修実施担当者 東野 哲也



教育施設として認定を受けている学会

日本耳鼻咽喉科学会認定研修施設、日本気管食道科学会認定研修施設、日本頭頸部外科学会認定研修施設

診療科の概要

頭頸部領域の中で、上は頭蓋底や眼窩領域まで、下は胸腔内を除く胸部領域までの全疾患を対象としている。

頭頸部の炎症、腫瘍性疾患、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚などの感覚障害や、音声言語障害な

どコミュニケーション障害や嚥下障害、さらに、顔面の奇形や障害による欠損に対する形成外科をも対象とし、広範多岐にわたり内科外科両面からアプローチしている。また、耳/鼻/咽喉・頭/頸部の疾患をバランスよく経験することができる。

研修症例の特徴

研修期間においては、耳鼻咽喉科における診察技術の習得を目標とし、病棟主治医として3～5名の患者を受けもち、指導医とともに診察を行う。

手術においては、扁桃摘出術、鼓膜切開術、鼓膜チュービング、耳瘻孔摘出術、気管切開術などの執刀を指導医のもと行う。

外来においては、一般的な耳鼻咽喉科診療をはじめ、鼓膜切開、鼻出血の止血等を学び、内視鏡、超音波検査等の診断手技に習熟する。夜間に一般救急外来を受診するような耳鼻咽喉科救急患者が来院した場合には、可能な限り、指導医とともに処置にあたる。

研修目標

【一般目標 (GIO)】

上記

【個別行動目標 (SB0s)】

- 耳鼻咽喉科領域の基本的な診察手技ができる。
- 良好な医師・患者関係を結ぶことができる。
- 症例提示と討論ができる。
- 包交・処置手術前後の管理ができる。
- 耳鼻咽喉科のプライマリー疾患の診断と対応ができる。

研修方略

【指導医および指導体制】

10年以上の臨床経験を持つ複数の指導医とマンツーマンで研修する。

軟性内視鏡による咽喉頭検査や手術用顕微鏡を使用した鼓膜の診察などを指導する。さらに、受け持ち患者の治療方針などは指導医と相談の

上、決めていく。

手術法や手術手技、外来処置も指導医と一緒に
行う。特に扁桃摘出、リンパ節生検などは執刀医
として対応してもらう。

【勉強会やカンファレンスなどの研修教育活動】

難聴支援カンファレンス（言語聴覚士・難聴支援看護師と共同）

頭頸部合同 Cancer Board（形成外科・歯科口腔外科・病理部・放射線科：神経グループと共同）

放射線治療カンファレンス（放射線科：放射線治療グループと共同）

画像診断カンファレンス（放射線科：神経グループと共同）

側頭骨ラボ（本学解剖実習室にて）

【週間スケジュール】

	午前	午後
月	手術 特殊外来	手術及び病棟業務・特殊外来 頭頸部合同 Cancer Board（1回/2週）
火	症例検討会 術前回診 初診外来	手術または特殊外来
水	手術または聴覚支援外来	手術及び病棟業務 難聴支援カンファレンス
木	MENTOR 朝ゼミ・抄読会 初診外来	症例検討会・病棟総回診 放射線治療カンファレンス（1回/2週） 医局会・MENTOR タゼミ
金	手術 特殊外来	手術及び病棟業務

- ・ MENTOR朝ゼミ：専門医試験対策（隔週木曜早朝）
- ・ MENTORタゼミ：関連施設配属専攻医も含めた全専攻医が集うセミナー（隔週木曜夕方）
- ・ 院内合同カンファレンス（頭頸部がん、画像、難聴支援）

研修評価

- オンライン卒業臨床研修評価システム（EPOC）による研修実施内容の評価（観察記録）

指導医・先輩医師からのメッセージ

当科は、アレルギー、めまい、難聴、先天奇形、感染症などの耳鼻咽喉科領域、頭頸部がんなどの頭頸部外科領域から構成されており、初期研修2年間でのどのような領域を中心に研修するのかは、個々の興味に応じて選択可能である。特に、耳鼻咽喉科研修において（鼓膜所見がとれるようになりたい/手術を多く経験したいなど）希望を初めに伝えていただくと出来るだけ対応する。